

# のしろ児童館だより

小松市北浅井町1号21 TEL・FAX 22-6430 平成23年6月号

## 子どもよ たくましく育て

明治維新を成し遂げた青年の多くはまだ10代であったそうです。

今、日本は平安時代以来の大災害に加え、原子力発電所の問題もあり、大きく方向転換を迫られています。今までにない考え方、価値観がこれからは求められるでしょう。戦後の高度経済成長期を作り、その中で生きてきた私達大人は、もはや価値観を変えることはできそうもありません。新しいことを受け入れることは大人には大変に難しいことです。

幸島のサルは芋を洗って食べるサルとして有名ですが、一番初めに芋を洗ったのは、大人のサルではなく、子どものサルであったとよく言われています。新しいことを、何の先入観もなくやり始める事ができるのは、やはり子どもであり、若者だろうと思います。

彼らにこの国の未来を託していかなければならない私達は、若者に、このよく現実を見て、良く学び、そして辛抱強く投げ出さずに物事に取り組んでいく人間に育ててほしい、新しい発想のできる人間に育ててほしいと願います。そうでなければ、これから起こる様々な想像もできない現実を切り開いていくことはできないからです。

これからの時代を生き抜く、たくましく、くじけない子に育ててほしい。

そのためには、どうすればいいのでしょうか？

今考え付くことは

まず、大人が「転ばぬ先の杖」を与えすぎないこと。手を出さず、口を出さず、子どものしていることを見守ること。自分で挑戦させ、失敗をたくさんさせること。大人が辛抱すること。

おやつをいつでも与えないこと。物やお金を大人の気まぐれで与えないこと。

決まった時刻に布団に入れ、決まった時刻に起こすこと。

食事にわがままを言わせないこと。特別な食事を作らないこと。

家の仕事に子どもを巻き込むこと。一緒に仕事をし、家族の一員としての役立ち感を育てること。

行楽地などにお出かけばかりすることが、子どもを大切にすることだと思わないこと。

そして何より、一緒に寝て、一緒に風呂に入り、一緒に食事をし、一緒に働き、よく話を聞き、一緒に考えること。

.....

こうして並べてみると、小さなことばかりしか思いつかないのですが、毎日のこのようなとても小さいことの繰り返しが、やがて積み重なり、たくましく強く、豊かな発想のできる子を育てていく力になるのではないかと思うのです。

子どものいる毎日の生活を、丁寧に過ごしていきたいものです。